

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	愛媛県	事業実施主体	愛媛県、松山市	地域再生計画名	S D G s 未来都市まつやまの実現に向けた安全安心なみちづくり計画									
計画期間	令和４年度～令和８年度	評価責任者	松山市企画戦略課長											

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価
			基準年度		年度	中間実績		基準年度					
	目標１	交通事故発生件数の縮減	1,039件	R3	891件	R6	1,013件	804件	R8	×	指標 総数	達成 数	
	目標２	木材生産量の増加	777m3	R3	800m3	R6	9,307m3	900m3	R8	○	3	2	
	目標３	Uターン転入者の促進（累計）	4,977人	R4	10,977人	R6	17,107人	14,977人	R8	○			
②事業の進捗状況		事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (R6)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	2.98km	0.682km	2.98km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約23%と低調であるが、令和6年度からはほとんどの路線で工事に着手しているため、今後整備量が増加していく見込みである。しかしながら、用地交渉等に時間を要している路線もあるため、計画期間の延長も視野に入れ、目標達成を目指すしていく。								
	林道整備事業（整備延長）	0.98km	0.663km	0.98km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約68%とおおむね順調であるが、引き続き計画に則した整備を図り、目標達成を目指すしていく。								
	その他の事業	—	—										
	計画外で独自に実施した事業	交通安全施設等整備事業	見通しの悪い交差点での交差点改良や、道路幅員が狭小で車両の離合できない箇所に待避所を設置することにより、車両の安全な通行を確保し交通事故の削減に努める。			地元要望や学校関係者から交差点改良等の相談を受けた後、本市職員が現地調査を行い、道路改良(案)を作成している。道路改良(案)の地元同意が得られたら順次事業化しているが、通学路に指定されている路線等は優先的に整備しており、効果的な交通事故の削減に取り組んでいる。							
		生活道路整備事業	緊急車両等の通行が困難な生活道路で、利用形態に応じた効率的・効果的な道路改良を行うことにより、地域住民の安心安全な交通を確保し交通事故の削減に努める。			地元要望を受けた後、本市職員が現地調査を行い、道路改良(案)を作成している。道路改良(案)の地元同意が得られたら順次事業化しているが、長い路線延長の要望であった場合、部分的な改良を提案する等、限られた予算の中で効率的・効果的な整備が行えるよう工夫している。							
水源かん養林整備の推進（新たな水源かん養林事業）		本市の課題である水源対策の一環として、市民からの寄付等により設置された「松山市水源の森基金」を活用し、右手川ダム集水区域の竹林のうち森林所有者から整備要望のある放置竹林の伐採を推進し、水源林造成の整備促進を図る。			右手川ダム集水区域の放置竹林を伐採し保水能力の高い広葉樹に転換する森林整備を促進したことで、水源かん養機能等、森林の持つ様々な公益的機能を高度に発揮させることができた。								
Uターンによる転入の促進		高校や大学生を中心とした松山の魅力を発信する「松山アンバサダー」の育成など、松山との関係人口を拡大し松山への愛着の醸成やUターンの促進を図る。また、転入者が安心してUターン転入し定住できるよう再就職や起業・新規就農に関する相談など、転入者のニーズに沿った各種支援を行う。			松山市に在学・通学する高校生以上の学生で構成されたプロジェクトチーム「マツワカ」は、令和7年度で7年目の活動となる。若者が松山市のことをより好きになって「ずっと松山に住みたい」、「県外の人にも松山をおすすめしたい」と思ってもらえるように、SNSやイベント活動を通じて松山の魅力を発信している。また、移住体感ツアーや東京・大阪での移住フェアに出展することで、移住検討者に松山の暮らしの魅力を知ってもらい、さらには、移住者を支援するための補助金事業等を実施し、Uターン転入者の増加につなげている。								
③評価方法		産学官連携組織「まつやま未来コネクト」において、中間目標値の実現状況に関する評価を行う。											
④中間評価の公表方法		松山市ホームページにて公表する。											
⑤計画全体の総合評価		本地域再生計画では、市道整備と林道整備を一体的に行うことで、地域の歴史資源等を安全に回遊できる道路ネットワークを構築するとともに農林業の振興を図ることを目的としている。さらに、農林業従事者の離職を防ぎ、新たな雇用を生み出し、定住人口が増加することを目指している。 なお、指標１の交通事故発生件数の縮減については、現時点で目標達成の見込みが厳しい状況にあるが、少しでも交通事故の発生リスクが低減できるよう、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていくものである。											
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）					計画上の道路整備を行うことで、地域間のネットワークが強化され、目標は概ね達成される見込みであるが、事業進捗状況が若干遅れている。このため、中間評価の結果を踏まえ、事業期間の1年延伸と総事業費の見直しを含む計画変更を行う。							
	令和8年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額					引き続き円滑に事業が進められるよう、要望どおりの補助金が交付されるようお願いする。							
⑦今後の方針等に対する対応		●地域再生計画の変更の認定申請を予定 ●市道小野12号線外1路線及び小野17号線の事業期間の1年延伸、全路線の事業費の見直し ・事業期間 小野12号線外1路線 認定時 令和5年度～8年度→見直し後 令和5年度～9年度〔1年延伸〕 小野17号線 認定時 令和5年度～8年度→見直し後 令和5年度～9年度〔1年延伸〕 ・総事業費 認定時6966,000千円→見直し後793,024千円〔97,024千円増〕											